

平成 21 年 6 月 29 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18720034
 研究課題名（和文） ポストン美術館所蔵浮世絵版画における歌川派役者絵の研究
 研究課題名（英文） Actor Prints of the Utagawa School in the collection of the Museum Fine Arts, Boston
 研究代表者
 倉橋 正恵（KURAHASHI MASAE）
 立命館大学・衣笠総合研究機構・ポスドクトラルフェロー
 研究者番号：90425071

研究成果の概要：世界最大規模を誇るポストン美術館浮世絵版画コレクションの中で、その大部分を占める歌川派役者絵のうち 4850 点を整理・考証・目録化した。さらに、コレクションのデータベースを構築し、当該館の HP 上でのデータベース公開にデータを組み込む事によって世界的な浮世絵研究、歌舞伎研究の基礎を整え、今後の研究発展のための土台を築いた。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,700,000	0	1,700,000
2007 年度	900,000	0	900,000
2008 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	240,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・美学、美術史

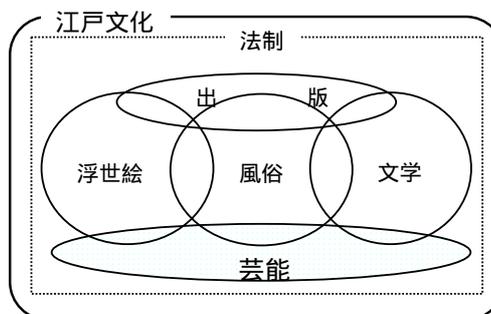
キーワード：美術史、芸能、データベース、日本史、文化人類

1. 研究開始当初の背景

(1) 申請者はこれまで主に演劇史の方面から江戸文化研究に取り組んできたが、一貫して分野間の拘束に縛られることなく演劇（特に歌舞伎）から派生する諸文化事情、具体的には浮世絵や一枚摺、また文学作品といった出版文化にも注目してきた。その結果、浮世絵や文芸作品、さらには工芸作品といった様々な文化表現として具象化するものは、当時の法制という枠組みの中で歌舞伎を主とする芸能文化が根底にあり、様々な江戸文化事象が複雑に絡み合いながらもその多くが芸能文化の多様性の一端を示すものである

ということが判明した。〔図〕

図1



したがって、総合的な江戸文化研究を行うた

めには各分野の基礎研究を行い、それらの成果を利用しながら芸能文化とのつながりを理解することが必要となる。そこで本研究では、歌舞伎と最も関連が深い「役者絵」(歌舞伎の演目や歌舞伎役者を題材とする浮世絵)と称されている浮世絵版画、特に18世紀末から19世紀にかけての浮世絵界を凌駕していた歌川派の役者絵に注目し、近世後期における歌舞伎の上演との関連性や、その他の出版物に与えた影響を考察したいと考えた。

(2) 上記の様な研究背景の中で申請者は近年、浮世絵師の中でも最も作品数が多く、かつ歌舞伎役者を描いた役者絵の作品数が突出している初代歌川国貞に注目し、国貞作品の目録化及び歌舞伎興行と浮世絵出版活動の関係性の解明に精励してきた。

(3) 日本を含めた世界の中で一二を争う大規模浮世絵版画所蔵機関でありながらもこれまで所蔵作品の詳細が長らく不明であったアメリカ合衆国ボストン美術館では、2005年より The Japanese Prints Access and Documentation Project を開始し、Web 上による一般公開を目指して所蔵浮世絵版画作品の整理及びデジタル撮影を進めていた。

(4) 浮世絵版画コレクションの大半を占める歌川派役者絵については、当該館の資金及び人材の不足により、美人画や風景画に比べて整理、目録化が大幅に遅れる事が予想されたため、歌舞伎と浮世絵の専門知識を有する申請者が、2005年夏より歌川派役者絵の整理に着手し目録化とデータベース構築を開始していた。

(5) 立命館大学アート・リサーチセンターでは、1998年より同館所蔵品だけでなく他機関所蔵の浮世絵作品の情報を収集して大規模浮世絵データベースの構築を開始していた。

2. 研究の目的

本研究を遂行するにあたり、掲げた目的は以下の4点である。

(1) ボストン美術館所蔵浮世絵版画における初代歌川国貞(三代目歌川豊国)全作品の目録化

(2) 初代歌川国貞以外の歌川派絵師による役者絵の目録化

上記2点は、ボストン美術館学芸員による目録化が最も遅れる事が予想できたため、申請

者が遂行すべき事柄と思われたためである。

(3) 国際的な研究環境の整備

(4) 所蔵機関の枠を越えた初代歌川国貞浮世絵版画の作品年表

上記2点については、所蔵機関であるボストン美術館だけに研究成果を還元するのではなく、データベースの公開によって国内外の研究者に研究成果を公開する事を目的としたものである。特に(3)に関しては、浮世絵という日本美術の固有の美術品を研究しようという動きが国外でも盛んであるのに対し、その研究、とりわけ基礎研究を援助・支援する体制が日本の研究者側に整っていないという状況がある。こうした現状を打破し、日本人以外の研究者も本研究の研究成果に簡単にアクセスできる方法をとりたいと考えたからである。

3. 研究の方法

(1) ボストン美術館所蔵の浮世絵版画は、貴重品であるため館外への持ち出しは不可能であり、しかも本研究を開始した頃は大部分の所蔵浮世版画作品に所蔵番号も付されず、当然デジタル撮影もなされていないという状況であった。したがって、申請者が現地に出向いて研究調査を行う以外に方法はなかったため、2006年度から2008年度内に、計6回、のべ13ヶ月程度と同館への研究調査を行った。具体的には、一回の調査期間内に、歌川国貞を中心とする500~2000点の歌川派浮世絵版画作品を目録化し、これと同時にデータベースを構築していった。

(2) 一回の研究調査が終了するごとに、集積したデータベースのデータをボストン美術館と立命館大学アート・リサーチセンターに寄贈し、それぞれが独自に運営するデータベースに組み入れる事により研究成果を順次公開していった。(ただし、アート・リサーチセンターでのデータベース公開については、権利問題があるためボストン美術館学芸員を含めた研究者間だけの公開となる。)

(3) 在国内期間の研究は、浮世版画の整理に必要な基礎情報の収集(歌舞伎資料の整理と上演年表の整備、浮世絵版画の出版者の整理等)を行いながら、国内外の他の所蔵機関の所蔵浮世絵の整理、目録化、データベース化を行った。

歌舞伎資料の整理と上演年表の整備
歌舞伎の興行については、従来の歌舞伎上

演史研究のように近代の研究者によって編まれた『歌舞伎年表』(伊原敏郎著、昭和38年、岩波書店)を盲目的に参照するのではなく、江戸時代及び明治初期に編まれた様々な上演年表資料そのものに注目して研究を行い、他の研究者の研究利用を促進した。現在は江戸歌舞伎の中で最も歴史が古い中村座で毎日記録されていた日誌『中村座日記帳』(1813年、1845年、1852~3年、1858~64年の計11年間分が早稲田大学演劇博物館に所蔵されている)に注目し、本書のWeb公開に向けてのデータベース化と翻刻作業に取り組んでいる。

浮世絵版画の整理には必ず必要となる、版元(出版者)を示す版元印を目録化しながら、版元そのものを整理し、データベース化を行った。

4. 研究成果

(1) 三年間の研究期間内に、初代歌川国貞作品を中心として、4850点のボストン美術館所蔵浮世絵版画作品の目録化を終了する事ができた。これらのデータは、全て同館及び立命館大学アート・リサーチセンターでそれぞれに運営しているデータベースに集積されて公開された。

(2) 研究成果の順次公開により、これまで整理、考証が困難であったために公開される事もなく、その結果として研究者でさえ閲覧、研究利用する事が難しかった作品が、簡単に国内外の研究者、また一般の利用ができるようになった。

(3) 大規模浮世絵版画所蔵機関であるボストン美術館を調査研究する事により、浮世絵版画の基礎研究を行う事ができた。具体的には、2218件の浮世絵版画の版元・版元印をデータベース化した。この版元印のデータベースは、Webによる一般公開を視野に入れながら、浮世絵版画全般の基礎研究に用いる予定である。また、今後の国内外の多数の浮世絵版画所蔵機関の作品をデータベース化するにあたっての問題点の把握や、今後の研究調査にむけての基盤構築が叶となった。

(4) 本研究により、概要ではあるものの初代歌川国貞作品年表を作成し、初代歌川国貞の落款リストを作成する事ができた。本研究の詳細かつ厳密な研究態度は、在外研究者によっても認められ、2007年のアメリカ合衆国・ボストンでのAssociation for Asian Studies, Annual Meetingでの口頭発表を契機として、同年11月にアメリカ合衆国・マディソンで行われた国際シンポジウム「Competition and Collaboration in Edo

Prints Culture: A New Perspective」に招待され、在外研究者に向けての発表を行った。これらの事により、在外日本文化研究者への大きなインパクトを与えた。今後はさらに扱う作品点数を増やし、より詳細な初代国貞の落款リストを作成して、これまで年代考証が困難であった役者絵以外の浮世絵版画作品も目録化していく予定である。

(5) 現地での長期間の調査研究により、ボストン美術館学芸員、調査員、補修職員へむけて、役者絵及び浮世版画、さらには江戸文化事象全般への教育普及を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

倉橋正恵, 「八代目市川團十郎の死と忠臣蔵 切腹の噂の流布と享受」, 赤間亮編『忠臣蔵と見立て』, 2009年12月刊行予定のためページ数不明, 文正書院, 査読無

倉橋正恵, 「幕末期の江戸における役者評判記」, 水田かや乃編『役者評判記の世界』, P119-130, 園田学園女子大学近松研究所, 査読無

倉橋正恵, 「役者評判記略年表」, 水田かや乃編『役者評判記の世界』, P148-152, 園田学園女子大学近松研究所, 査読無

〔学会発表〕(計3件)

倉橋正恵 「海外浮世絵研究の現状 ポストン美術館の活動とデジタル化の意義 -」, 立命館大学土曜講座「新しい人文科学への挑戦 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」, 2008年1月, 於立命館大学, 日本・京都

倉橋正恵, 「A List of Kunisada's Signatures: Its Usefulness and Problems」, 国際シンポジウム「Competition and Collaboration in Edo Prints Culture: A New Perspective」, 2007年11月3日, 於Chazen Museum of Art, アメリカ合衆国ウィスコンシン州マディソン

Sarah Thompson, Rachel Saunders, 倉橋正恵, Quintana Heathman, 「Print Culture in Tokugawa Japan: Recent Research at the Museum of Fine Arts, Boston」, Association for Asian Studies, Annual Meeting 2007年

3月,於Marriott Hotel, Boston, アメリカ合衆国ボストン

〔図書〕(計1件)

古今いろは評林をよむ会(廣瀬千紗子, 齊藤千恵, 倉橋正恵, 金子貴昭, 石上阿希, 松葉涼子, 松岡亮, 下香川真由, 周萍, 戸川郁子), 『古今いろは評林 本文と解釈』, P1-165, 古今いろは評林をよむ会, 2008年12月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

倉橋 正恵 (KURAHASHI MASAE)

立命館大学・衣笠総合研究機構・ポストドクトラルフェロー

研究者番号: 90425071

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者